

技術士 2次試験に合格して



長内 克真

(おさない かつまさ)

勤務先

株式会社 環境保全サイエンス

農村地域振興室

〒060-004 札幌市中央区北4条西6丁目1番地 毎日札幌会館7階

TEL 011-281-3131 FAX 011-281-3134

E-mail k.osanai@kankyohozen.co.jp

■ 専門：農業部門(農村地域計画)

1. 自己紹介

私は、1988年に北海道札幌市に生まれ、高校まで札幌市で過ごし、大学は九州大学農学部に進学し、大学院を含め、福岡市で6年間過ごしました。大学院では大豆の収量を向上させる研究に没頭しました。就職時にどのような職業に就くか悩んでいた頃、農業インターンシップに参加しました。その際に、農家の方から農業政策や交付金の話を聞き、農業経済についてもっと学びたいと思うようになりました。そこで、北海道での就職を考えていたのもあり、土地改良事業の経済効果や営農計画の策定を行っている現在の会社に入社しました。入社後は大学で農学部に進学していたものの、基礎知識がなかったため、毎日が驚きの連続でした。しかし、北海道の農家はほとんどが専業農家であり、経営規模も本州と比較してとても大きく、北海道の農業への貢献が日本の農業への貢献に直結するため、とてもやりがいを感じています。

2. 技術士取得に向けて

技術士試験の第一次試験にあたる技術士補は、大学院在学中の平成26年に取得しました。技術士の第二次試験は平成28年度に運良く合格することができました。合格の一番の要因は、技術士補ながら日本技術士会北海道本部青年技術士交流委員会に参加させて頂き、講演や研修会、富山で開催された全国大会への参加や技術士補ながらイベントのリーダーもやらせて頂いたことです。そのような活動を通じて、自分の仕事に誇りをもって取り組み、常に自分を向上させようと一生懸命になっている先輩技術士の方々に憧れるようになりました。そして、「自分も技術士をとりたい」と強く思うようになりました。最初は技術士に疑いを持って、委員会に参加していた私ですが、確信へと変わりました。

平成28年度の技術士試験でようやく業務経験要

件を満たし、初受験しました。初受験の上に、業務経験が2年間しかないことから、業務経歴票の作成段階から大変苦労しました。また、業務経歴票を提出後の筆記試験の勉強は、どのように勉強すれば良いかわからず、正直、筆記試験一カ月前には、合格を諦めていました。そんな時に先輩技術士の方から「1カ月集中して、勉強してみろ」と激励を頂き、それから1カ月間は、猛勉強を行い、なんとか筆記試験を合格することができました。

口述試験対策は、先輩技術士の方との模擬面接や想定問の作成を行い、実際に発声を行う練習を何度も行いました。

試験当日は、緊張であまりうまく話すことができませんでしたが、事前に過去に行った業務のポイントを整理していたので、聞かれた質問に対しては自分の考えを述べることができました。

3. 今後に向けて

筆記試験合格から口述試験までの約1カ月間は、「技術士とは何か」を自問自答する日々を過ごしました。技術士は、取得するのも難関ですが、より困難なのは、取得後だと思います。幸いにも若くして取得することができましたので、長く続く技術士人生の中で、自己研鑽に励み、農業に貢献したいと思います。日本の農業は、農家戸数の減少や耕作放棄地の増加等の厳しい現実がありますが、自分ができる技術力を駆使し、少しでも農業に貢献し、自分の生き残る意味を残したいと思います。

また、技術士取得のメリットの一つが人的ネットワークが広がることだと考えております。今後も日本技術士会北海道本部青年技術士交流委員会の活動を通じて自己研鑽に努めたいと思います。

最後になりましたが、今回の技術士試験に向けて、支援して頂いた職場の皆様、指導して頂いた先輩技術士の方々には心より感謝致します。